

# 不祥事防止研修

## 【体罰防止】

平成26年7月24日（木）



- 研修資料 「教職員による不祥事の根絶」  
—信頼され続ける教職員であるために—（改訂版）
- 研修内容
- ①事例5「体罰」について、事案が発生した要因，威圧的に指導している職員へのアドバイス，体罰防止への取組などについて，個々がP12に記入後，3グループに分かれて，協議した。その後，全体で交流して研修を深めた。
- ・体罰は，どんな状況であっても許されない。
  - ・感情的になると，児童の心に響く指導にならない。その場ですべて指導しようと思わない。その場で注意はするが，時間をかけて落ち着いて考えることができる場で指導する方がよい。
  - ・E教諭は，日ごろからこの児童の指導に悩んでいたのではないかと。悩みを出し合い，学校全体で解決できるようにすることが必要である。
- ②場面1「体罰」P29について3グループに分かれてロールプレイした。その後，全体で交流し，研修のまとめを行った。
- ・このような状況になると，児童は素直になれなくなることが分かった。B児を追い詰めないで，他の児童がいない場で個別に指導する方がよい。
  - ・A教諭も指導を続けていると感情的になってくるので，クールダウンが必要である。後で指導することをB児に伝え，時間を

において指導する。

- ・この事例では、他の児童はA教諭の指導をきくことができたが、B児のような児童が複数になる場合には、教職員も複数で対応する方がよい。職員室にいる教職員や隣接学級の職員がいっしょに対応する体制をつくる。